

学校からはじめよう！エコタウンづくり

えどがわエコセンターと共育・協働で環境学習を推進するモデル校

令和2年度
グリーンプラン推進校
報告書



認定NPO法人 共育・協働の環境づくり

えどがわエコセンター

1. グリーンプラン推進校について

グリーンプラン推進校とは、江戸川区の共育・協働の理念にもとづき、学校(園)における環境学習を推進するモデル校のことです。

えどがわエコセンターから各種情報の他、資材などの経費を提供し、学校における環境学習が充実するよう支援をしています。一年間環境学習に取り組んでいただいた後、活動内容をホームページや報告書などでPRしていきます。

グリーンプラン推進校の参加メリット

- 環境学習活動費として、各校「5万円」の助成が受けられます。
- えどがわエコセンター「環境学習プログラム」の中から、無料で「出前授業」を受けられます。
- えどがわエコセンターホームページで活動内容を紹介します。
- 他校の環境学習の活動状況等を知ることができます。
- 環境学習に関する様々な情報が得られます。

条 件

- 対象は江戸川区内の幼稚園・小学校・中学校です。
- 年度当初に、総合学習の年間計画や出前授業等について伺います。
- 中間報告・最終報告の提出や報告会への参加をお願いします。
- えどがわエコセンターへの会員登録をお願いします。

2. えどがわエコセンターについて

えどがわエコセンターは、区民・学校・商店街・事業者・行政やNPO/NGOと連携し、『環境にやさしいまち・エコタウンえどがわ』を目指しています。地球温暖化防止やごみ減量の普及啓発、自然体験や調査活動など、様々な事業を展開しています。

えどがわエコセンターでは、区民や団体と一緒に色々な活動に取り組んでいます。

- 地球温暖化防止・・・低炭素社会づくりに関するイベント・講座など
- 資源循環・・・フードドライブ事業、おもちゃの病院など
- 自然環境保全・・・河川・海岸の保全、東なぎさクリーン作戦など
- 仲間づくり・・・すくすくスクール放課後環境教育、小中学校出前授業
エコアクション講座、「エコカンパニーえどがわ」の推進など)

3. 令和2年度グリーンプラン推進校

小学校（13校）

小松川小学校 大杉小学校 二之江第二小学校 第二葛西小学校
南葛西小学校 下鎌田小学校 篠崎小学校 篠崎第二小学校
篠崎第三小学校 小岩小学校 東小岩小学校 下小岩小学校
西小岩小学校

中学校（3校）

小松川第三中学校 鹿本中学校 小岩第五中学校

目 次

活 動 報 告

小松川小学校	p. 3
大杉小学校	p. 5
二之江第二小学校	p. 7
第二葛西小学校	p. 9
南葛西小学校	p. 11
下鎌田小学校	p. 13
篠崎小学校	p. 15
篠崎第二小学校	p. 17
篠崎第三小学校	p. 19
小岩小学校	p. 21
東小岩小学校	p. 23
下小岩小学校	p. 25
西小岩小学校	p. 27
小松川第三中学校	p. 29
鹿本中学校	p. 31
小岩第五中学校	p. 33



えどがわエコセンターでは、
『SDGs（持続可能な開発目標）』の
活用を推進しています。

学校名	小松川小学校	対象学年と人数	4年生：70名
活動名	日本らしい自然の再生		
指導者	学内指導者：鈴木郁、林佑磨 学外支援者：東京大学大学院生命科学研究科 根本正之先生		

目標

生物多様性の保全が言われる昨今、小学校付近のわずかな緑は、造園樹木や園芸草花など人工の緑ばかりです。現代の子供たちの日常生活の中で、生物多様性に富んだ日本らしい自然を体験する場を提供したいと考えました。小学生児童が主体となって、日本の在来植物を再生する活動を行います。

成果

カワラナデシコは秋の七草と言われますが、絶滅の危険が増大している植物です。今の5年生がお世話をしたカワラナデシコを4年生が引継ぎ、分散登校時に一人一株持ち帰りました。児童は夏休み明けにカワラナデシコの株を持ってきて、正門横の花壇に移植しました。また、東京大学大学院の根本正之先生から分けていただいたキキョウとオミナエシ（秋の七草）を移植しました。そして、開花したカワラナデシコから種子を採取し、児童は学習のまとめで調べたことを新聞にしてお互いに見合いました。こまっこが日本の在来植物を再生する活動を行っています。

感想・課題

小学校児童と地域による、オオブタクサ、セイタカアワダチソウ、オオキンケイギクなどの強害外来植物除去による自然再生は、多くの地域で試みられてきました。しかし、毎年草取りを続けても、強害外来植物が容易になくならないのが現状です。また強害外来植物の除去だけでは、在来植物が自然に生えてくることはなかなかありません。そこでこの活動では、地域の緑に日本らしさを感じなくなった都会で、小学校児童が自らの手で在来植物の芽生えから観察と栽培を行い、さらにその苗を「汐入方式」で移植し、昔は東京でも誰もが身近に見たり遊びの対象にしたりした、生物多様性に富む「日本らしい自然」の再生を目指しました。目標とする日本らしい自然とは、東京大学大学院生命科学研究科の根本正之博士が提唱する「人間による自然の『受け入れ』『管理』『改変』の三つがほどよく調和していた空間」です。

実際に行った「汐入方式」は、強害外来植物の生えている草地でそれを除去した裸地（ギャップ）に、あらかじめ育てておいた地域苗を植え込む仕方です。長期計画（2～3年）で行えば、児童自ら体験しつつ「日本らしい自然」を取り戻すことができます。実際にこれまでの活動で、東京都の学校の校庭や河川堤防でも、多くの在来植物が見られるようになってきました。

必ず関東河川流域から採取した在来植物を移植することで遺伝子攪乱を起こさないようにすることが課題です。移植した在来植物は、年を重ねるにつれ個数を増やし、大きく立派に育っていきます。



校門横に児童が移植し、開花した
カワラナデシコ（秋の七草）



児童が夏季休業中に一人一株持ち帰り、
カワラナデシコのお世話をする



カワラナデシコ・オミナエシ・キキョウを
正門横に移植する



シャベルを使って穴をあけ、
在来植物を移植する児童



カワラナデシコとキキョウの
鞘から種子を採取する



蒸発皿と鉛筆の先を使い
種子のみを丁寧に取り分ける

学校名	大杉小学校	対象学年と人数	5、6年生（委員会）
活動名	大杉小緑化計画「みどりいっぱいになあれ！」		
指導者	学内指導者： 小笠原淳主幹教諭 松田和樹教諭 久保田秀樹副校長 学外支援者： (役割分担)		

目標

- 大杉小をみどりでいっぱいにする。
- 見た目も心も、ほっとできる学校づくりをする。
- 委員会の活動を通して、協同作業の効率化を図りながら、学校美化の精神を培う。

成果

- 廊下の一部にグリーンコーナーを設置したことで、心が穏やかに落ち着いて生活できたという児童の感想が聞かれた。
- 緑のカーテンの設置により、環境の美化と職員室内の快適な環境づくりの一助となった。節約にもつながりよかった。

感想・課題等

- 委員会の児童は、当番を決めて、毎日水やりや観察を行ったので、学校緑化計画の意識が高まり、よりよい学校の環境づくりを図ることができた。
- 今年度から発足した委員会なので、今後も継承していくとともに、学年や学校全体へ意識を広め、児童一人一人や教職員への意識化を図っていきたい。
- 校舎内のグリーンコーナーを増やしていくようにする。

1. 緑のカーテン（ゴーヤ）



2. 廊下のグリーンコーナー





学校名	二之江第二小学校	対象学年と人数	全学年：448名
活動名	みんなで守ろう環境計画！ 地球の未来は二之二から！		
指導者	学内指導者：全教員 学外支援者：蓮田愛育会		

目標

- サツマイモ（2年）、小松菜・蓮（3年）、ゴーヤ・ヘチマ（4年）、米（5年）などの栽培活動を通して、CO₂削減、室内温度の上昇防止などの身近な環境に関心をもつ。
- 校内にある蓮田を中心とした学習活動を通年でを行い（3年）郷土愛を深める。

成果

- 小松菜栽培を通して、地域の産業への興味関心が高まった。
- 蓮田から約55kgの蓮を収穫し、給食に使用、蓮掘りを通して郷土愛を深めた。
- グリーンネットを利用したゴーヤとヘチマの栽培を行い、地球温暖化防止への関心を高めた。

感想・課題等

- 児童
 - ・サツマイモ掘りは、ツルが絡まって大変だったけど、楽しかったです。
 - ・自分で収穫したサツマイモが給食で出て、うれしかったです。
 - ・蓮田に初めて入りました。土が軟らかくて気持ちよかったです。
 - ・小松菜の育て方や地域の主要農作物を知ることができました。
 - ・グリーンカーテンの効果を調べました。
 - ・お米の育て方を知りました。
 - ・お米の種類が多さに驚きました。
- 担任
 - ・蓮の栽培活動を通して、地域とのつながりを感じました。
 - ・グリーンカーテンの効果を知り、地球温暖化防止に自分も役立てる活動（エコチャレンジ）へ意欲をもつことができました。
- 地域
 - ・栽培した物を自分で食することで命の大切さを学び、自然を大切に守っていかうとする心を子供たちにもってほしい。
- 課題
 - ・植物への水やりは、毎日行わなくてはならないものであり、こうした作業に積極的になれない児童もいる。しかし、こうした活動にしっかり取り組むよう指導し、生きている植物を世話することは、地道で大変なことであるということも実感させていきたい。

1. ヘチマ・ゴーヤの栽培



- グリーンネットを使った緑のカーテンで、節電とCO₂削減に取り組んだ。

2. 蓮の栽培



- 地域「蓮田愛育会」の方々と3年生が、蓮田で蓮の栽培をした。
- 55kgの収穫があり、給食で食した。

3. サツマイモ栽培



- 2年生がサツマイモを栽培し、収穫後、給食で食した。

学校名	第二葛西小学校	対象学年と人数	5、6年生：322名
活動名	「○学校ビオトープをつくろう」「◇学校花いっぱい運動」		
指導者	学内指導者：森岡弘光、福山高志		

目標

- 魚やエビ、多様な水草を植えたり、水生昆虫も呼び込んだりすることで多様な生態系を築く。
- 委員会活動を中心に、児童が主体的に世話をすることで、生き物や自然環境に対して関心をもったり、大切にしようという意識を高めたりする。
- 理科や生活科、その他の教科でも使えるように開放し、児童の自然愛護の意識を高める。
- ◇校内に多様な花を植え、またその作業を他学年も見ること、母校への愛着や自然愛護の意識を高める。

成果

- 校庭の見やすい場所に新たな池が誕生したことで、何があるのか、何がいるのか調べたいという児童の関心が高めることができた。
- 委員会の児童を中心に、池の世話を通して生き物の生態への知識を深めたり、動物愛護の気持ちを高めたりすることができた。
- ◇種から育てた苗を植えたり、たくさんの種類の花を植えたりしたことで、植物の種類や世話の仕方についての知識が増えた。
- ◇花壇の中に入らない、ボールを入れないよう呼び掛けるポスターを作るなど、自然愛護の意識が高まった。

感想・課題等

- 当初予定していた活動は、コロナの影響もあり、児童主体から教員主体になってしまったものもある。また、完成の時期が遅れてしまい、思ったよりも水生昆虫が集まらなかった。
- 今後、学区を流れる旧江戸川と関連付けた環境学習ができるように整備を継続させていく。
- 特別な支援を要する児童がビオトープを観察しに行くなど、気持ちを静めたり切り替えたりするためにも一定の効果があった。
- 5年生の理科の学習や、他学年の学級でのメダカの観察にも活用ができた。ビオトープ内ではメダカが自然に繁殖しており、来年度以降も持続可能なビオトープになった。
- ◇高学年が花壇の世話をしていると、低学年の児童がその様子を見ていたり話しかけたりしていることが多く、学校全体の取り組みとして興味・関心を高められた。
- ◇植えた植物が大きくなりすぎたり、花の時期を過ぎたりしたときなど、植え替えについての指導を受けられると良かった。
- ◇今年度は2学期後半から委員会活動が始まり、思うようにできなかったため、来年度は児童主体の活動を増やしていけるように計画したい。



使われていなかった飼育小屋をビオトープにしました。



夏の苗づくり。種から植えました。花壇の周りもきれいにします。



冬の花の植え替え。季節に合わせて花壇の様子も変わります。



学校名	南葛西小学校	対象学年と人数	5年：97名
活動名	残そう・守ろう・伝えよう 「南葛西」 ～公園ボランティア（富士公園）～		
指導者	学内指導者：原 由里子、望月 弘行、柳堀 学 学外支援者：株式会社 伍楽園スタッフ様		

目標

○地域の一員としての自覚をもち、地域のよさを見付けたり課題を見付けたりしながら、すすんで自分にできることを考えたり行ったりできるようにする。

成果

○この単元の導入として、この活動を位置付けたことで、地域のために働いてくれている人たちの存在に気付くことができた。

○地域のための活動をすることで、自分の住む町をよりよくしたいという気持ちをもつきっかけとすることができた。

感想・課題等

○普通ではできない貴重な体験ができたと思う。公園をきれいにしておく手伝いができたことを喜んでいて。

○自分たちが植え替えをした花壇に校名の入った看板を立ててもらい、自分たちが作った花壇という意識をもつことができ、子どもたちはとても嬉しがっていた。家族や友達に自慢したいという児童もいた。

○1クラス2時間程度の作業であったが、植え替え作業の大変さを知ることができた。思っていたよりも深く穴を掘ることに驚いている子もいた。公園にいつでもきれいな花が咲いているのは、このように作業してくださっている方たちのおかげだということに気付き、感謝の気持ちをもつことができた。また、公園の自然を保つために、ごみを捨てないようにしたいと考えることもできた。

○今年度は、コロナ禍の関係でこの活動1つしかできなかったが、世の中が落ち着き可能になったら、他の活動もできるといいと思った。

○富士公園内の花の植替え作業

まずは、やり方の説明を聞きます。みんな真剣です。説明が終わったら、作業開始です。



花壇に花を植える活動をしています。最後に、植えた花に水やりもします。



南葛西小学校の看板を立ててもらいました。公園に遊びに行ったときは、花の様子を見ます。



学校名	下鎌田小学校	対象学年と人数	2年生：38名 3年生：45名 6年有志 環境委員会：14名
活動名	下鎌田環境プロジェクト2020		
指導者	学内指導者：奥村孝史校長・千葉海斗・鷹澤雅代・松本修平 菅井和生・佐々木文代・佐藤京子・小川憲和		

目標

- 身近な自然と触れあい、環境を大切にできる態度を高める。「ヤゴ救出大作戦」「カブトムシ越冬隊」
- 朝顔を育て、緑のカーテンをすることで、節電に対する意識を持たせる。「グリーンカーテン」
- エコキャップの回収活動を通して、児童でもできるリサイクル活動に気づかせる。
「下鎌田SDGs隊」
- 栽培活動を通して、生命の素晴らしさに気づき、花に親しみ大切にできる心を育てる。「花いっぱい大作戦」

成果

- 「ヤゴ救出大作戦」
コロナ休校から学校再開したばかりの状況の中で子どもたちが生命の変化と神秘に触れることができ、身近な生き物に興味をもち、飼育意欲が高まった。
- 「カブトムシ越冬隊」
「ヤゴ救出大作戦」の意欲を継続させることで、生き物を育てる姿勢と命の大切さを理解するようになってきた。
- 「下鎌田SDGs隊」では、6年生隊員の呼びかけでたくさんエコキャップが回収でき、行動することで環境が変わることに気づき、全校児童は誰もが関わられる環境活動があることを知るきっかけとなった。
- 「花いっぱい大作戦」
校庭の井戸水をくみ上げ、環境委員会の児童が毎日水やりをしている。水道水を使わず水やりは、節水の意識を高めている。

感想・課題等

- 「ヤゴ救出大作戦」でヤゴがトンボに変化するところを多くの児童が目撃でき、児童の目に輝きを与えた。「カブトムシ越冬隊」では、夏のやごから冬は、カブトムシの幼虫を夏にカブトムシとして誕生させるべく2年生が飼育している。担当している幼虫の死を受け止めたり、生き物を育てる責任感を芽生えさせたりすることで、心の成長に役立った。
- 「グリーンカーテン」は、猛暑により、想定よりも葉が茂らず、イメージしたグリーンカーテンにならなかったのは残念な結果である。花はきれいに咲いたので、2年生の観察活動には役立った。
- 「下鎌田SDGs隊」は、呼びかけから1か月が過ぎ、当初の勢いに陰りが見えてきたので、時々、呼びかけや何かアクションを起こす必要がある。
- 「花いっぱい大作戦」は、委員会活動で球根を植え、水やりをしているが、成果は見えにくい。春に向けて芽が出て学校の花壇が花いっぱいになる日が楽しみである。

○「ヤゴ救出大作戦」



・やごからトンボに脱皮する瞬間を見ることができました。

○「カブトムシ越冬隊」



・カブトムシの幼虫に名前をつけて班ごとの成長を見守っています。

○「グリーンカーテン」



○「下鎌田SDGs隊」



・エコキャップの回収活動をしています。

○「花いっぱい大作戦」



・校庭に面している花壇に、環境委員会の児童が日替わりで水やりをしています。水は、ポンプから組み上げた水を使用して節水対策を実践中です。



学校名	篠崎小学校	対象学年と人数	全学年：600名
活動名	篠小の「自然と環境を学ぶ活動」		
指導者	学内指導者：全教職員 学外支援者：エリー株式会社 梶栗氏（SDGs）、篠崎小学校「おやじの会」		

目標

- 学校農園等での栽培や飼育活動を通じて、身近な自然とふれあい、自然環境を大切にできる態度を育てる。
- 飼育した蚕を通して現代的な課題を学び、持続可能な社会の実現に役立つことを理解する（3年総合）。
- 環境委員会で環境ポスターを作り、身近なところから社会的な課題を解決する意識を高める。

成果

- 学校農園で、低学年はサツマイモ、中学年は小松菜を中心に栽培した。高学年は栽培委員会の活動で様々な農作物を栽培し、草取りや水やり等の世話を継続的に行った。児童は、野菜の成長に関心を持ち、愛情をもって育てることができた。また、栽培したキャベツからは、たくさんのモンシロチョウの幼虫が得られ、理科の学習に生かすことができた。校庭でもアサガオやヒョウタン等の栽培活動を行った。
- シルクフードを開発する民間企業の方に出前授業を依頼し、今後の世界的な人口増加に伴う食糧危機において、昆虫食が環境にやさしいエコな食品として注目されていることについて学習することができた。
- 「おやじの会」と協力して飼育委員がカブトムシを幼虫から飼育し、1038匹を成虫にすることができた。本校の児童や他校にも配布し、生き物の飼育を通して生命の尊さを学ぶ機会の提供に貢献した。
- 環境委員会で作成したポスター（節水、省エネ、リサイクル、ゴミの分別）をSDGsのロゴと一緒に校内に掲示することで、身近なところからできることに取り組もうとする意識が高めることができた。

感想・課題等

- 学校農園の活動では、地域住民との交流が減少化している。従来は、農作業の指導などが活発に行われていたが、農作業従事者の高齢化や学校職員の異動等に伴う事業の継承や維持が困難になっている。また、今年度は、コロナ禍の影響により、農園ボランティアによる活動がほとんどできなかった。来年度以降、保護者や地域と協働していく仕組みづくりを再構築していくことが課題である。
- 本校では、蚕、カブトムシといった昆虫をはじめメダカやカメなどの飼育をしている。校舎改築に伴い校内のビオトープは限定されるが、近接する江戸川等の自然環境を活用して生態系や自然環境の成り立ちを学習できるよう教員の工夫した場作りが急務である。
- 環境教育に関して、出前授業を依頼する際には、学校側と外部講師の授業実践に対する思いや願いのズレが生じかねない。事前の打ち合わせを十分に行いたい。
- 環境ポスター制作と掲示は、作成した児童の意識向上に大きく寄与すると感じた。さらに、学校全体の児童の意識の向上には、教科学習や特別な活動の時間を通して、ポスターと関連させた授業を教師がデザインし、児童が学習することが必要であると考えている。
- 地域の歴史史実である「黒い水事件」等、第5学年の社会科教育の公害学習に関連して単元開発をするなど、地域素材を生かした授業の実践が、身近な地域から持続可能な社会創りに向かって主体的に行動する担い手の育成に欠かせない課題だと考えている。

【学校農園での活動】



畑の畝（うね）作り



夏の草取り



サツマイモの収穫



小松菜の栽培



モンシロチョウの幼虫の観察

【昆虫（カブトムシ）の飼育活動】



幼虫のほりあげ



教室での飼育



カブトムシとのふれあい

【ゲストティーチャーによる出前授業】



カイコと昆虫食の授業



昆虫から作られた食品



クッキーやパスタなど、様々な食品が作られています。

【環境委員が作成したポスター】



ゴミの分別を
きちんとしよう。



水を
大切に
使おう！



蛇口の
しめわすれに
注意！

学校名	篠崎第二小学校	対象学年と人数	全学年：323名
活動名	○身近な自然や生き物に触れてみよう 大切にしよう ○身の回りの物を大切にしておみや残菜を減らそう		
指導者	学内指導者：全教職員 学外支援者：えどがわエコセンター（中嶋 美南子先生、相澤 新様）		

目標

- 自分の住んでいる身近な自然に目を向け、地域に愛着をもち自然を大切にしていこうとする気持ちを育てる。
- 身近な生き物を観察することで、命を大切にしようとする気持ちを育む。
- 牛乳パックのリサイクルや給食完食週間の活動を通して、環境やリサイクルに対する意識をもたせる。

成果

- 1年生は篠崎公園で「どんぐり拾い」を行った。学校に隣接した緑豊かな公園の自然を体感し、植物を身近にとらえ、自然に興味をもったり、大切にしたりする気持ちをもたせることができた。
- 2年生は花の広場で「虫捕り」を行った。えどがわエコセンターからの講師をお迎えして、虫についてのお話と、虫捕りで虫に触れ合うことができた。虫取り網と虫捕りかごが用意できなかった児童には予算で網とかごを購入し、全児童に網とかごを持たせることができた。
- 3年生は同じく花の広場で、瀬尾造園の方の指導のもと、花の種まきを行った。自分たちで植えることで、植物を大切にしようという気持ちをもたせることができた。
学校給食に納入してくださっている「小松菜農家」の見学を行い、地域の農作について関心をもつことができた。
- 飼育委員会では、「モルモット」「カブト虫」の飼育を行い、飼育を通して生き物をいつくしむ心や命を大切にすることを育むことができた。
- 給食委員会が主体となり「もぐもぐチャレンジウィーク」に1週間、全校で取り組んだ。残菜が減ったことが分かり、完食してごみを減らそうという意識が高まった。
- 今年度より、「牛乳パック リサイクル」が始まり、一人一人が自分の飲んだ牛乳パックを洗って乾かし、リサイクル置き場に係児童が学級のパックを毎日置きに行っている。紙をリサイクルすることをより身近に感じることができ、「教室で使う紙もリサイクルして使おう」という意識が高まった。

感想・課題等

- 篠崎第二小学校は「篠崎公園」「花の広場」に隣接しており、また地域には小松菜のビニールハウスが残っている自然環境に大変恵まれた学校なので、子供たちは常に自然を体感し、自然を大切にしようという意識が高い児童が多い。
- 牛乳パックのリサイクルは児童の活動として定着している。
- 今年度はコロナ禍ではあったが、低学年を中心に自然に親しんだり観察したりする活動ができた。今年度の実績を活かし、来年度はさらに充実した活動ができるよう計画を立てたい。

活動報告（活動写真）

学校名

篠崎第二小学校



2年生

花の広場 「虫捕り」



件名 花壇づくりボランティア活動支援委託
場所 江戸川区指定の場所
上篠崎はらの広場
(篠崎第二小学校)
播種 花ご前
かぼち(混色) 2年11月24日
受注者 江戸川造園緑化協会



3年生

花の広場 「花の種まき」



牛乳パック リサイクル



学校名	篠崎第三小学校	対象学年と人数	5年生：78名
活動名	屋上で稲作体験		
指導者	学内指導者：佐藤白章 学外支援者：学校応援団		

目標

米作りの体験（田植え、稲の観察など）を通して、自分の生活の一部として関わりをもつ「米」について幅広く知り、米のよさや大切さ、米作りに携わる人々の苦労や願いに気付く。

成果

- 田んぼ作りから行い、田んぼ作りの大変さを体験し、農家の苦労を知ることができた。
- 田んぼでの稲作、砂袋での稲作を行い、成長を比較しながら観察することができた。
- 田植えを行い、当該学年だけでなく他学年にも稲や昆虫など自然に触れ合う機会となった。
- 作った米を白米と玄米を2種類に分け、試食することで残さず食べる意識を高めることができた。
- 米作りから学んだことや疑問として調べたことを下級生に発表し、次の学年に引き継ぐことができた。

感想・課題等

○感想

- ・児童が田んぼの土の感触を楽しみながら、田植えの体験ができて良かった。
- ・校庭ではなく、5年生のフロアに田んぼがあることで、気軽に観察することができ、すべての児童が成長に気付くことができた。

（以下児童より）

- ・田んぼにいろいろな昆虫や生き物が来て、観察できて面白かった。
- ・稲穂が出てきて、稲の色の変化が見られてよかった。
- ・稲刈りが意外と力が必要で大変でした。
- ・脱穀やもみすりをすべて手作業でやると手が痛くなった。昔の農家の人たちはこれをやっていたすごいと思った。
- ・育てた稲が食べられて嬉しかった。玄米は少し硬かったが、おいしかった。
- ・自分たちの体験を下級生に発表できて、来年も5年生が稲作体験をしてくれたら嬉しい。

○課題

- ・屋上にあるため、温度上昇が激しい。→水の管理がこまめに必要だった。
- ・カラスやスズメなどの鳥が多い。→鳥よけの対策が必要だった。
- ・風通しが悪い場所だったため、害虫が付きやすい。→害虫予防が念入りに必要だった。
- ・児童が見ることはできるが、外部の方が見ることはできない。→広報が必要だった。
- ・外部講師を呼ぶことができれば、より深い学びが得られたと感じる。
→来年度に検討している。



田起こし



芽出し

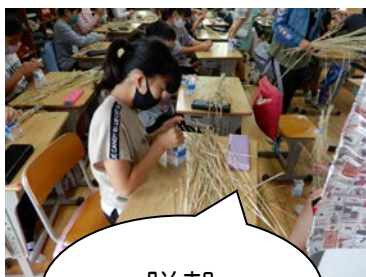


稲刈り

稲が太く固くて、
切るのが大変！



成長



脱穀



もみすり

粳がなかなか
取れない。



白米と玄米を食べる

普段食べている米を育て食べる体験を通して、お米一粒も残さないようにしていきたいと考え、フードロスの考えにも発展することができた。

体験したこと、調べて分かったことを4年生に発表し、学びを共有するとともに、稲作体験をする新たな伝統を引き継ぐことができた。

SDGsの目標2の飢餓の解決について、フードロスの観点、持続可能な農業の観点から考え、取り組むことができた。



体験発表会

学校名	小岩小学校	対象学年と人数	1・2年生：121名
活動名	あきとあそぼう		
指導者	学内指導者：1学年担任（島田雅子、山崎康央）、講師（小松由香利） 2学年担任（竹上晋平、宇佐美宏美） 学外支援者：今年度無し		

目標

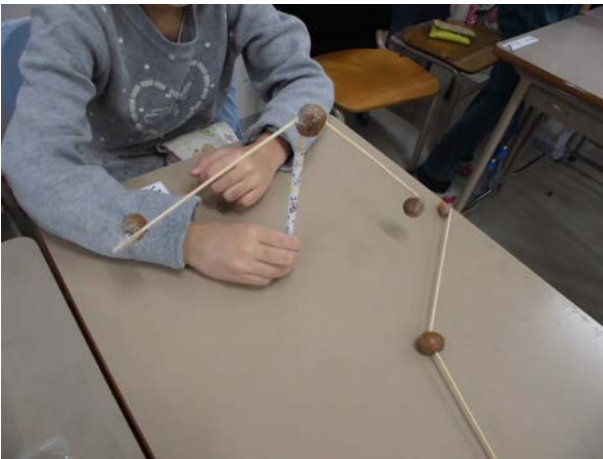
- 身近な生活の中で、落ち葉やまつぼっくり、どんぐりなどを見つけることで、季節によって自然が変化することや、自然の不思議さに気付く。
- 落ち葉やどんぐりなどの身近な自然や、身近にある物を使って遊びや遊びに使うものを工夫して作って遊ぶことを通し、その面白さや、自然の不思議さに気付く。
- 身近な自然に親しみ、友達と楽しみながら自分たちの生活を楽しくしようとする。

成果

- どんぐりや落ち葉、まつぼっくりなどを活用して、自分たちの生活を楽しくするおもちゃ（コマ、ヤジロベー、的あて、マラカス、でんでんだいこ、かんむり、葉っぱの絵など）を作ることができた。それらを使ったお店やさんを行い、教え合いながら様々な遊びを体験することができた。
- 様々な遊びを経験する中で、色、形、手触り等を確認められたほか、まつぼっくりの種やどんぐりから出た根、どんぐりむしの存在などにも気付き、生き物のつながりにも目を向けることができた。

感想・課題等

- 昨年度は「どんぐり拾い」を実施した際に、えどがわエコセンターの支援者にどんぐりについて専門的な話をさせていただいたが、今年度はコロナ禍の状況により実施できなかったのが残念であった。
 - 様々などんぐりを豊富に用意できたことで、児童はいろいろなおもちゃを作りながら秋を感じることができた。
 - どんぐりを加工する際は、画鋏などが必要になるので今後も安全管理を徹底したい。
- 【課題】
- どんぐりを加工する際に、錐やハサミなどが必要なときは、教員を多く配置したり、事前に準備しておいたりするなどさらに安全に進めたい。
 - クヌギなど丸い形のどんぐりはなかなか手に入れられず、近くで拾えるという方に多大なご協力をいただいた。できれば、どのようなところにあるか情報をいただけるとありがたい。
 - 次年度はどんぐりを活用したおもちゃづくりについて、えどがわエコセンターより支援をいただきたい。



おもちゃ作りの様子



遊んでいる様子

学校名	東小岩小学校	対象学年と人数	4年生：60名
活動名	「みどりの小道」環境日記、農園活動		
指導者	学内指導者：4年担任 学外支援者：学校応援団		

目標

- 環境問題に関する日記を記入することをきっかけとして、日頃から身近な地球環境について考えるとともに、身のまわりで何ができるか話し合う。
- 農園活動を通して、自然の営みを学習し、地球環境に関する理解を深める。

成果

- 1日の生活を振り返ることで、家庭や学校で地球環境について取り組めることの多さに気付くことができた。毎日、節電や節水の取組を日記に記録することで、一人ではなく友達と協力しながら続けることの大切さにも気付くことができた。
- 農園活動は、毎年野菜づくりを通して自然の営みを学習できる貴重な場所となっている。この学習には、地域の方が「学校応援団」として協力してくださっており、例年であれば、子どもたちと学校応援団の方々が一緒に種まきをしている。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症のため、子どもたちは臨時休業中だったので、5月に10名の学校応援団の方々が畝作りをしてくださり、教員と一緒にポップコーン用トウモロコシの種まきとサツマイモの苗植えを行った。その後、学校応援団の方々が草むしりや柵の補強などのお世話を続けてくださったお陰で、10月には無事収穫を楽しむことができた。例年は学校応援団の方々と一緒に、学校で調理し収穫パーティーをするが、残念ながら今年度は校内でいただくことになった。

感想・課題等

- 毎日環境日記を書くことで、環境問題について興味をもつことができた。
- 川に流れ込むプラスチックごみを減らすために、レジ袋やプラスチックの容器をできるだけ使わないような工夫を家でもしている。
- 自分一人だけでなく、クラスの全員が毎日エコに取り組んでいるので、効果は60倍になることが分かった。学校全体で行えば、300倍以上になるので、呼び掛けていきたい。
- 「学習発表の日」で3年生に環境学習の取組をプレゼンした。パワーポイントを使って、大切なことを分かりやすくまとめることができた。
- 農園活動では、例年通りの活動ができなかったが、学校応援団の方々ののおかげで、貴重な体験ができた。これからも緑を大切にしていきたい。



「みどりの小道」環境日記の取組
校内の緑化活動にも取り組みました。



「学習発表の日」3年生に環境学習の取組を
発表しました。



農園活動
4年生はトウモロコシを収穫
しました。



学校名	下小岩小学校	対象学年と人数	全学年：259名
活動名	花がつなく地域のつながり ～JR小岩駅との交流～		
指導者	学内指導者：全教職員 学外支援者：JR小岩駅		

目標

- コスモスの種を植え、育て、観察するなど草花をはじめとする植物に親しみをもつ。
- 感染症対策で身体的距離を確保しなければならない中、児童・生徒が人と人との心のつながりを感じ取ることができるように花を通じて人とつながる。

成果

昨年度末にグリーンプラン推進校に応募をしました。そのときは「持続可能な社会づくりの担い手を育て」ことが重要な課題であるとの認識のもと、SDGsに関連した取り組みを考えていました。ところが予想もしなかったコロナ禍による臨時休校。身体的接触を避けるための様々な教育活動の制限。全校児童をまきこむような取り組みをしたいという思いが、感染症対策にかき消されました。そんな中、思いもしなかったところから一本の電話が。最寄りの小岩駅の駅長さんからでした。

「地域の環境改善のために、一緒に活動をしませんか？」

小岩駅から歩いて8分。フラワーロード商店街にある下小岩小学校。以前から駅長さんに道徳授業地区公開講座の講師をお願いするなどの関わりはありましたが、更に何か交流ができないかと模索をしていました。

コスモスを育て、秋に写生会を行い、その作品を駅に展示していただけたとのことでした。感染症拡大防止のため活動が制限される中、少しでも子どもたちの思い出に残る催しをと考え、二つ返事で提案に賛同しました。展示スペースの関係で5年生のみが写生を行うことになりましたが、駅員の方との貴重な交流をさせていただきました。

感想・課題等

写生会で作成した作品は、JR小岩駅の改札口を飾りました。年間を通じた環境教育の実施には至りませんでした。この他にも「ウサギ小屋をきれいにしよう。」「落ち葉を掃除して用務主事さんの手伝いをしよう。」とささやかな取り組みも行いました。フィジカルディスタンスが叫ばれる中、なによりもESDで育みたい力であるコミュニケーション能力の涵養に貢献できたのではとひそかに思っています。



駅長さんからコスモスの種をいただきました。



駅員さんと一緒に種を植えました。



見事に咲いたコスモス



5年生と駅員さんで写生会を楽しみました。



JR小岩駅改札に作品が展示されました。



学校名	西小岩小学校	対象学年と人数	6年生：30名
活動名	ウエルカムガーデンを作ろう		
指導者	学内指導者：長江純、寄野美佳、小宮山芳輝、佐々田俊介 学外支援者：なし (役割分担)		

目標

- 校内の花壇の雑草を抜いたり、花の苗や球根を植えたりするなどの「ウエルカムガーデン」を作る活動を通して、ボランティア精神の向上を図る。
- 植物を世話する活動を通して、自然を大切にしようとする心情を育てる。

成果

- 中休みやお昼休みなど、子どもたちが自主的に活動に取り組む姿が見られた。
- きれいなウエルカムガーデンが完成した。
- 活動中に他学年の児童に話しかけられると、優しく活動の内容を教えたり、「お花を大切にね。」などの声かけが自然と起こったりする場面が見られた。
- 自主的に校舎内を清掃したり、委員会活動での活動内容が充実したりするなど、「みんなのためにできることは何か」という意識が高まった。

感想・課題等

【参加した児童の感想】

- 草むしりは大変だったけれど、きれいになった花壇を見ると、すっきりしました。きれいになった花壇を見て、みんなが喜んでもらえるとうれしいです。
- チューリップとムスカリの球根を植えました。花が咲くのは、私たちが卒業する頃です。きれいなウエルカムガーデンになるといいなと思います。
- 私たちが花に水をあげていると、1年生と2年生の子が、「私たちもあげたい。」と言ったので、じょうろを貸してあげました。楽しそうに水をあげていました。

【課題】

- コロナ禍ということもあり、感染拡大防止の観点から、外部指導員を招いての活動を行うことができなかった。
- 参加児童は全校児童の一部であり、全校的な活動として位置付けることができなかった。今後は、活動内容を工夫し、教育課程や指導計画とも関連させながら、計画的に環境学習に取り組みせていく必要がある。



学校名	小松川第三中学校	対象学年と人数	全学年：280名
活動名	SDGs 11 住み続けられるまちづくり 農園活動、緑化活動、SDGs		
指導者	学内指導者：各学年教諭、特別支援学級教諭 学外支援者：小針丈幸 様（SDDソリューションズ理事） （役割分担）講師折衝：副校長		

目標

SDGs 11 「住み続けられるまちづくり」をテーマに、各学年・学級で行動し発表する。

1年：校外学習において、小松川・平井地区の環境・文化について学ぶ。

2年：校外学習において、東京都内の環境・文化について学ぶ。

3年：SDGについて各自テーマを設定し、調べ学習を行い、まとめ、発表をする。

特別支援学級：土づくり、農園活動を行い、食に対する意識・意欲を向上させる。

全校：SDGsについて各教科・領域横断的に学び、全ての生徒が具体的に行動できる。

成果

〇3年生は、SDGsに関する行動について2年目の取組であり、今年度はカードゲームを通して学習した。「社会・経済・環境」のバランスをとりながら、個々の目標を達成するためにどのような視点を持ち、行動すればよいのかを考える機会ももてた。冬休み中に、各自が何かしらのアクションを起こすことを宿題とする。1, 2年生においても3学期中に実施する予定（12月現在）

〇1, 2年生においては、自身が地域の環境や文化について調べ、探索し、まとめ、発表することで、学びを深めることができた。

〇特別支援学級（F組）では、土づくりから始め、枝豆、じゃがいも、小松菜などを育てた。収穫した野菜は調理実習で食し、農作業の大変さや食に対する感謝の気持ちを高めることができた。

〇本校の学校経営方針の柱でもあるSDGsについて、各学年計画的に取り組み、生徒が学ぶ機会をもつことができた。

感想・課題等

〇コロナ禍におけるこの一年は、学校教育においては授業時数確保が優先事項となった。このことにより、学校行事はもちろん、外部講師を招いて環境教育をより進めるなど、年度当初の計画を実行できない、悔しい思いの一年となった。取組は可能な範囲で行ったものの、積極的な体験活動、発表を公開し発信することができなかったことは残念である。

〇一方で、昨年度は教員・PTAの共催で実施した研修会を、中学生においても実施し、とても有効であることがわかった。体育館を2つの世界に分け、SDGsを達成するために、「誰一人取り残されない社会の実現」に向けての思考力を高める学習会となった。本校は男女市松模様の座席と4人組の話し合い活動をスタンダードに教育活動を実践しているが、男女ペアで真剣にとり取り組んでいる姿は、教師にとっても感動的であった。

〇このような経験・機会を与えていただいたことに感謝するとともに、来年度の活動の中で引き続き取り組んでいく。

農園・環境美化活動：特別支援学級（F組）

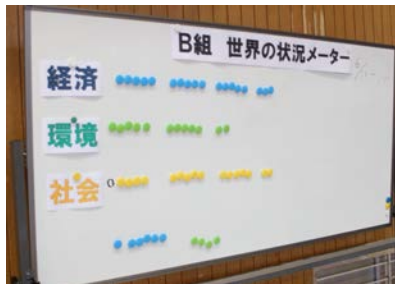


枝豆の収穫



江戸川名産の小松菜も

SDGs学習会（カードゲーム）：3年生は12月実施、1，2年生は三学期実施予定



冬休み中に取り組みます 「コマサンSDGsアクション」

花の苗、球根も購入しました



コマサンSDGsアクション 2020~21

SDGsの17項目が並べられており、各項目のアイコンと日本語のラベルが示されています。

17 パートナーシップで目標を達成しよう

誰一人取り残されない社会の実現を目指します。

学校名	鹿本中学校	対象学年と人数	美化委員会：30名
活動名	鹿本中メモリアル植樹会		
指導者	学内指導者：鈴木亮太・江尻瑞沙・安本由美（美化委員担当） 学外支援者： （役割分担）		

目標

- ①生徒の自主性を育てる。
苗の植樹から苗の水やりや管理を生徒自ら分担等を決め活動する。
- ②自治活動の活性化を図る。
生徒が自主的に当番活動をすることで、達成感を味わい、意欲的に活動する。

成果

- 生徒主体の活動（美化委員の活動）であるため、達成感を感じる生徒が多かった。
- 3年生を中心に、苗の水やり当番を決めたことで、責任感をもって活動することができた。
- 地域の方も通る場所に苗を植樹したことで、地域と学校との関わりが増えた。

感想・課題等

美化委員会は、6年前より「美化委員が鹿中を変える！」というスローガンのもと活動してきました。具体的な活動として、トイレ清掃の美化チェックノートの作成と実施・学期に一度ボランティアを募り行う地域清掃（美化ボランティア）、清掃用具点検等があります。それに加え、今回はグリーンプランという機会をいただき、生徒自ら苗を植えるところから始まり、3年生を中心に苗の水やりや管理等、生徒の自主的な活動につながりました。特に今年度は新型コロナウイルスの感染予防の観点から、ほとんどの学校行事が中止になり、最高学年である3年生の活躍する場が失われてきた中でこのような活動ができたことは、3年生にとっても有意義な活動になりました。

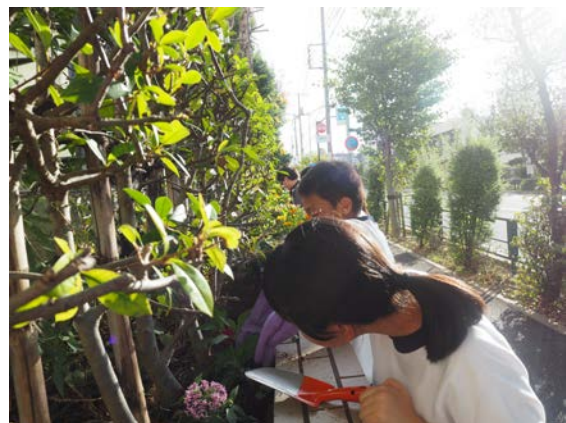
しかし、美化委員だけでなく、全校生徒も巻き込んでの活動には至らなかったため、美化委員を中心とした活動であるという全校生徒の認識が低かったのが課題です。今年度の「鹿本中メモリアル植樹会」を機会に、来年度以降も実施し、次は全校生徒から植樹会に参加するメンバーを募ったり、苗の管理当番を決めたりして、全校生徒で活動できる場を設けていきたいと考えています。



日差しが強い中、慣れない植樹でも美化委員として責任をもって活動しています！



校長先生や主事さんにも協力していただきました！



学校名	小岩第五中学校	対象学年と人数	全学年
活動名	兼五園で過ごし、環境について考える		
指導者	学内指導者：全教職員		

目標

- 兼五園の完成を目指し、整備をする中で、校内の学習環境を整備し、自然や環境、生命について考え、意識を高める。
- 校内ボランティアや委員会活動を通じ、環境を大切にしている態度を高める。

成果

- 兼五園の池の落成式にて、学校長講話として本校の歴史、地域の願いとともに、兼五園に込められた想いについて話をを行った。校内にアジサイやイチジクなど多くの植物が植えられ、自然豊かな環境が整っていることに、生徒は興味を持ち、身近な環境について考える機会を増やすことができた。
また、全校生徒がクラスごとに兼五園を見学する機会を設け、池に植えられた水仙やカキツバタ、生息している鯉や金魚を観察した。登校時や昼休みに兼五園を眺め、友達同士で話し合う姿が見られ、自然と共に生きる環境の整備と生徒の意識の変化を確実に感じる事ができた。
- 兼五園の整備にボランティア部や委員会、有志の生徒が参加することで、校内の自然環境に興味関心を持ち、生命を大切にしている心を育てることができた。

感想・課題等

- 本校の敷地内は学校長を中心に教職員や生徒と一緒に兼五園として整備を進めている。上記の活動成果以外にも防災井戸での散水作業を体育委員会が行うなど、校内の自然環境を整える生徒の意識は年々高まっている。
- 今年度は新型コロナウイルス感染症により、様々な活動が制限された。特に生徒の集団活動がスタートできず、自然と触れ合う機会を当初の計画通り実施することができなかった。
- 本校生徒の勤労観、ボランティア精神は非常に高い。今後も兼五園の整備・管理を生徒が主体的に取り組むことができるよう進めていくことが課題として考えられる。



11月7日（土）
兼五園の池の落成式
にて行われた学校長
による講話の様子

学級ごとに兼五園（池の鯉や
カキツバタなどの水生植物）
の見学の様子



ボランティア部と有志生徒
による花壇整備活動





発行：認定特定非営利活動法人えどがわエコセンター

〒134-0091 東京都江戸川区船堀 4-1-1 タワーホール船堀 3 階

TEL: 03-5659-1651 FAX: 03-5659-1677

URL: <http://www.edogawa-ecocenter.jp/>
